

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 87人

② 算数 87人

#### 5 留意事項

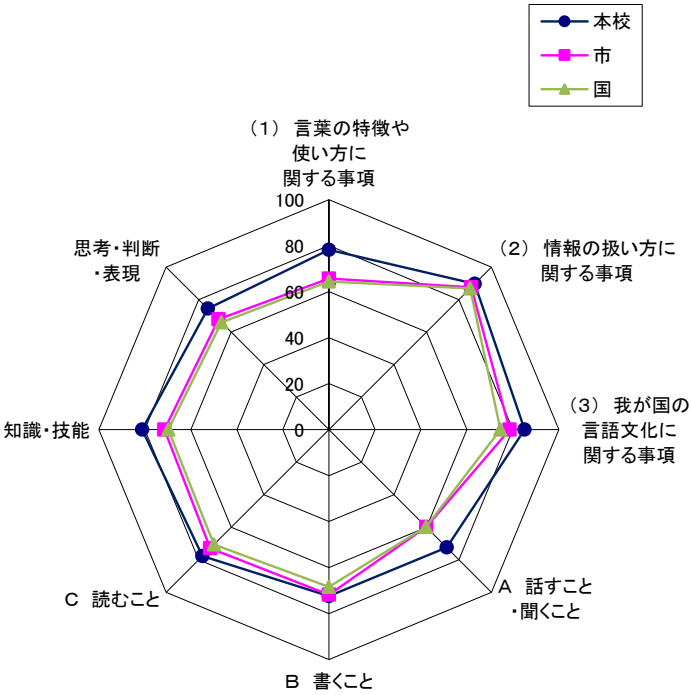
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 78.2 | 65.7 | 64.4 |
|     | (2) 情報の扱い方にに関する事項    | 89.7 | 87.6 | 86.9 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項   | 85.1 | 78.6 | 74.6 |
|     | A 話すこと・聞くこと          | 72.4 | 59.9 | 59.8 |
|     | B 書くこと               | 72.4 | 71.8 | 68.4 |
|     | C 読むこと               | 77.8 | 72.9 | 70.7 |
| 観点  | 知識・技能                | 81.2 | 71.5 | 69.8 |
|     | 思考・判断・表現             | 74.4 | 67.8 | 66.0 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度        |      |      |      |



★指導の工夫と改善

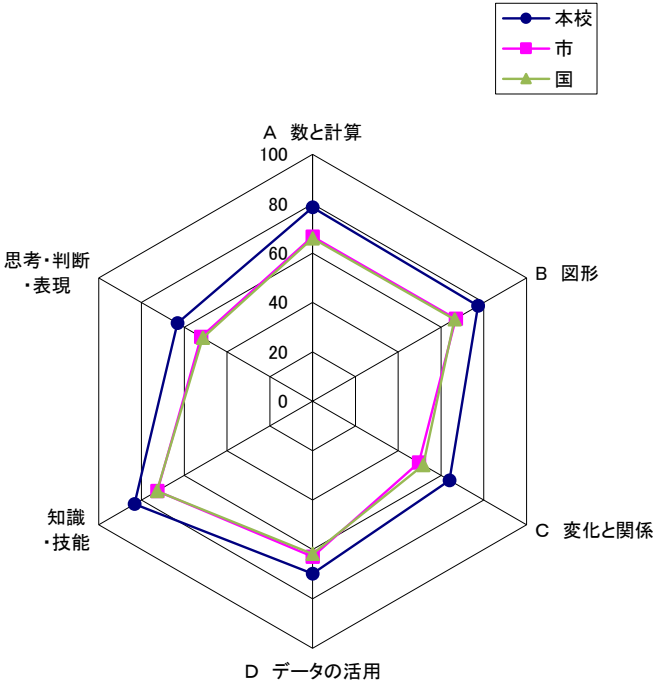
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                      |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、市や全国を大きく上回っている。<br>○話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかみる問題の正答率は83.9%で、全国の平均を8ポイント上回っている。<br>●漢字を文の中で正しく使うことができるかみる問題で、「競技」と正しく解答できた割合は全国を大きく上回っているが、正答率は58.9%で他の問題に比べると低かった。                                                                                                        | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・漢字の字形を覚えるだけでなく、文の中での使い方や成り立ちについての理解も深められるよう、指導を工夫していく。<br>・AIDリルなどを活用し、繰り返し学習をすることで基礎基本の定着を図っていく。                |
| (2) 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は、市や全国を上回っている。<br>○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題の正答率は89.7%で、全国の平均を約3ポイント上回っている。                                                                                                                                                                     | ・情報と情報との関連付けや図や表と文を関連付けなど、他教科においても意識して指導していく。<br>・関連付けについて、タブレットなどのICT機器を活用することで理解が深まるよう指導方法を工夫する。                                            |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項   | 平均正答率は、市や全国を上回っている。<br>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかみる問題の正答率は85.1%で、全国の平均を10ポイント以上上回った。                                                                                                                                                                         | ・今後も読書活動の充実を図り、本に親しむ習慣を身に付けられるようにする。<br>・教科書で取り上げられることが少ないが、ことわざや故事成語などについて触れる機会を設けたり、家庭学習に取り組んだりして親しむことができるようにする。                            |
| A 話すこと・聞くこと          | 平均正答率は、市や全国を大きく上回っているが、他の領域に比べて正答率がやや低い。<br>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかみる問題の正答率は80.5%で、全国の平均を10ポイント以上上回っている。<br>●3問中3問とも全国の平均を上回っているが、誤答の割合を見ると、話し手の工夫や話し手が何を意図して話しているのかについての理解が不十分である児童が20%いることが分かった。                                                          | ・話し合い活動や友達の発表を聞く活動では、話し手が意図していることを考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。<br>・日頃の学習で意見を交流し合う活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことや理由を正しく聞いたりすることを繰り返し指導していく。 |
| B 書くこと               | 平均正答率は、市や全国を上回っているが、他の領域に比べて正答率がやや低い。<br>○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかみる問題の正答率は83.9%で、市や全国の正答率を上回っている。<br>●空欄に入る内容をメモを基にして書く問題は市や全国の正答率を上回っているが、正答率は60.9%でやや低い。メモから言葉や文を取り上げ事実を書くことは出来ているが、よさについて自分の考えを書くことが出来なかった児童が35.6%いた。事実を基に自分の考えを書くことに課題があることが分かった。 | ・段落や基本的な文章構成などを繰り返し指導することで、書くことの基本的な知識技能を身に付けることができるようにする。<br>・書くことの単元に限らず、朝の学習や家庭学習など短い文を書く活動を日常的に行う。                                        |
| C 読むこと               | 平均正答率は、市や全国を上回っている。<br>○人物像を具体的に想像することができるかみる問題の正答率は82.8%で全国の平均を大きく上回っている。<br>●物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題の正答率は78.2%で全国の平均を上回ったが、無回答率は11.5%と高かった。また、全ての条件を満たして書くことを苦手とする児童がいることが分かった。                                                                                          | ・引き続き、読書活動の充実を図っていく。様々なジャンルの読み物に触れることができるよう、指導を工夫する。<br>・書かれていることを根拠に自分の考えを書いたり伝えたりする活動を積極的に取り入れ、正しく読み取るだけでなく伝え合う活動の充実を図っていく。                 |

宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算        | 78.5 | 66.7 | 66.0 |
|    | B 図形          | 77.3 | 66.9 | 66.3 |
|    | C 測定          |      |      |      |
|    | C 変化と関係       | 64.0 | 49.6 | 51.7 |
|    | D データの活用      | 69.8 | 62.9 | 61.8 |
| 観点 | 知識・技能         | 83.3 | 72.6 | 72.8 |
|    | 思考・判断・表現      | 63.2 | 52.2 | 51.4 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                       |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と計算   | 平均正答率は、県や国の平均より10ポイント以上高い。<br>○すべての問題において正答率が75%を超えており、基礎基本が定着していることが伺える。<br>●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、平均正答率が75.9%と他の設問と比べると低く、記述問題にやや課題があると言える。                                     | ・今後も基本的な計算の定着に向けた学習を継続したい。また、AIドリルなどを活用することで、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにして、個別最適な学習を目指したい。<br>・授業では、計算の仕方を図や数直線などを活用して説明したり、友達と考えを交流したりする時間を十分に確保し、考えや解法を記述して説明する力を伸ばしたい。また、家庭学習においても記述問題に取り組めるよう宿題の出し方の工夫も行いたい。 |
| B 図形     | 平均正答率は、県や国の平均より10ポイント以上高い。<br>○立方体の見取図について理解し、かくことができるかみる問題の正答率は89.7%で市や全国の平均を上回っている。全体の中でも正答率が高く、よく理解できていることが伺える。<br>●球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかみる問題は、市や全国の平均を15ポイント以上上回っているが、正答率が54.0%で、課題があると言える。 | ・様々な図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したり触ったりする活動を通して、目の前に図形がなくとも頭の中でイメージできるようにしていく。                                                                                                                                      |
| C 変化と関係  | 平均正答率は、県や国の平均より10ポイント以上高い。<br>○速さの意味について理解しているかみる問題の正答率は、県の平均を21.3ポイント、全国の平均を17.2ポイント上回っている。<br>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかみる問題は、県や全国の平均を上回っているが、正答率が39.1%と低く、速さ(分速)の本質的な意味が正しく理解できていないことが分かった。      | ・速さの本質的な理解を促すために、課題解決をする際に型に当てはめた解法を行わせるのではなく、どちらが速いか図や式を使って説明させたり、導き出した答えが何を表しているのか考えさせたりすることで、本質的な理解に迫りたい。<br>・生活場面で割合が用いられていることを提示しながら、学習活動の中で身の回りの事象と関連づけて考えられる場を設定し、日常生活と結び付けて割合を活用できるように指導していく。          |
| D データの活用 | 平均正答率は、県や国の平均より8ポイント以上高い。<br>○4つの問題全ての正答率が県や国を上回っていた。特に、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかみる問題の正答率は89.7%で、県の平均を8.6ポイント、全国の平均を8.9ポイント上回っている。<br>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまる言葉と数を用いて記述できるかみる問題の正答率は、県や国の平均を上回っているが、49.4%と低かった。   | ・日常の生活や身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって実際にデータを集めたり、集めたデータに対し、目的やデータの種類に応じて表やグラフにまとめたりするような場を設定していきたい。そして、分類整理した表やグラフから、特徴や傾向を把握し分析するなどして、問題に対する結論について、自ら根拠をもって説明することができるように指導していく。                                   |

## 宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定的回答が97.7%で、全国の平均を7.8ポイント上回っている。今後も、児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人の良さや頑張りを認め称賛していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定的回答が100%で、全国の平均を3.3ポイント上回っている。今後も、「いじめは絶対に許さない。」という強い信念のもと、全校体制で指導にあたっていきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問では、肯定的回答が83.9%で、全国の平均を16.8ポイント上回っている。児童が困ったときにはいつでも教師に声を掛けられるよう、常に受容的な態度で接しながら、保護者との連携を深めていきたい。

●「国語の勉強は好きですか」の質問では、肯定的回答が60.9%で、全国の平均を1.1ポイント、県平均を3.1ポイント下回った。物語のおもしろさを味わったり、言葉を用いて伝え合う喜びを感じたりできるように、授業展開を工夫していききたい。

●「算数の勉強は好きですか」の質問では、肯定的回答が58.6%で、全国の平均を2.4ポイント、県平均を2.6ポイント下回った。自らの力で問題を解く喜びを味わえるよう、主体的・対話的な学びの機会や課題解決的な学習を多く設定していききたい。

## 宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                    | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                      | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 見通しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業を展開する。 | 児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末では、自らの学びを振り返る時間を確保できるようにする。 | 「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的回答は、約90%で学習に対して主体的に取り組もうとしている児童が多いことが分かる。「自分とちがう意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の肯定的回答は、昨年度80%を下回っていたが、今年度は83.9%でやや高まったことが分かる。自分の考えの持たせ方や話合いの仕方を様々な工夫し、進んで話合いに参加したり、話合い活動で充実感を味わったりすることができるよう、今後も指導を工夫していく。昨年度70%を下回っていた「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか。」の肯定的回答は、80%を超えてた。今後も児童が次の学びにつなげられるような振り返りの充実を図っていく。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                                                                                                                                                                      | 重点的な取組                                                                   | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「学級の友達との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている」の肯定的回答は、どちらも90%をやや下回っている。「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」でほぼ毎日と回答した割合が11.5%、逆に週1回以上と回答した児童が42.8%いることから、様々な教科で効果的にICT機器を活用することが課題であると考えられる。 | 自分の考えを分かりやすく書いたり、伝えたりする力を身に付ける。<br>友達の考えを聞き、考えを深めたり広げたりすることができる指導の工夫をする。 | 各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく。また、友達と考えを交流したり、共有したりする時間を確保し、考えを広げたり深めたりすることができるよう指導を工夫する。個人用パソコンを活用し、考えを整理したり伝える順序を組み立てたりしやすくする。完成したものを交流するだけでなく、考えをまとめていく過程でも、ICT機器を活用して協働的に学んでいくことで、分かりやすく書いたり、自信をもって伝えたりすることができる児童の育成に努めていく。 |